

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和 6 年 5 月 31 日 蛭川・一之瀬地区

開会

代表 あいさつ

市長が掲げている「シン」は本当に意味深い言葉だと思う。市長のキャッチフレーズとして、色々な意味があつてとてもいいと思っている。

私たちも今日の懇談会で、市長に真摯に受けとめてもらって、新しい道を開いていただけることを期待しているし、真剣に、真実を話しますのでよろしく願います。

市長あいさつ

市民の皆さん方と、こんなまちにしていきたいとか、これからどうしていったらいいのか、地域が良くなっていくためのテーマを決めて、対話集会をさせていただいている。

本日は皆様方からお話を聞くことが多くなるかもしれないが、今までの経過などを含めて、限られた時間ですがどうぞよろしくお願いいたします。

参加者

テーマはリニア送電線と、私たちの住んでいる地域との関係。私たちから求めて始まったことではなく、降って湧いたような話。

参加者

平成 27 年、中部電力から、リニアの専用回線の塔を建てさせてくださいというお話があり、10 回ほど説明会などが行われた。事前に話はなく、あくまで事業者の単独の事業である、という説明から始まり、住民の意見を聞いた。住民はここでの建設は駄目だとしたが、中部電力は土地を買収し、自分たちの土地だから何をしようが勝手だと、塔が建ってしまった。ここは景観が悪くなる、住民への影響があるから通さない、という話をしていたにも関わらず、その約束まで破って、現在のところに建ててしまった、というのが全体の概要です。建てるまでには、3 者協議をやろうと何度か試みたが、最終的に中部電力が逃げてしまったというような状況。

そのあと、市とは 3～4 度話し合いをしたが、1 年程前を最後に墓地の問題でストップしているのが現状。

参加者

我々としては、里山を維持することにこれからも努めていきたい。しかし、墓

地の上を送電線が通過することになっている。この墓地の管理者は中津川市。当初の中電での説明では、墓地の上を通さないと明言していたが、最終的には事業者である中電の判断で、墓地の上を送電線が通る。使用者に説明をし、承諾を得ることは必須じゃないかと私は思っている。

中電は使用者へ説明会を開催すると言っていたが、未だ実施されてない。墓地の上を送電線が通らないようにと反対する要請書を、中津川市長と中電の社長に出している。それから遺族会としても、ルート変更の要望書を出している。

参加者

ちょっとあまりに横暴なやり方じゃないかなという気がする。

参加者

説明もないのに亡くなった方の上を送電線が通るとするのは、遺族としては本当に腹立たしく思う。

参加者

市役所が中部電力に工事の許可を出している。しかし、経緯について説明がない。中電だけでなく、市役所も説明会をやらないと。

参加者

中電からの説明だと、最終的には市に承諾をもらったとのことだが、市の担当者は、この承諾というのは、上空 40 メートルを通ることに関して支障はない、という言い方をしたという。

リニア対策課から、困ったことがあったら何でも相談しに来てくださいと言われていたので相談をした。すると、中電の説明と私たちの話には食い違いがあると言われたので、地元と中津川市と中電と集まって話をしたいと頼んだが、中電に断られたため、前市長に申し入れて1回だけ2者会議を行なった。

参加者

遺族会全員が署名して反対だと言ったのに、そこまで無視するだろうかと。利用している人たちが直接、説明して欲しいと言っているのに、しないわけだから。あまりに無慈悲だと思う。

参加者

お墓の上空は通さないという約束をしたのに裏切られた。中部電力からの最終的な返答は、市に許可をもらった、全員ではないけれども上空を通る墓地の使

用者の方に許可をもらったという説明しかない。

参加者

ここまでで、市長さん、疑問やご意見はありますか。

市長

事実のお話をお聞きしていると思っていますので疑問はないです。

参加者

市役所も、相手になってくれなかったわけだから。どういうふうにみんなの、不満を吸収するのか。

参加者

市の墓地の担当者は、何度か私たちには説明してくれた。

参加者

現状でいうと、皆知らんぷりしているっていう状態になっている。

市長

3 者会議は何回かやられたわけですね。

参加者

11～12 回開催したが、話は平行線だった。市役所が管理者なのだから、中電問題だというふうには、本来はならない。住民は、管理者に向かってものを言っているわけだから。

参加者

私たち住民も、地区全体としてはリニアに反対しているわけではない。ただ、送電線のルートの検討をしてほしい。我々も、送電線問題世話人会として、住民の方々と話しながら、別のルートを考え、中電に説明もしたが、工期が長くなる、費用がかさむ、ここを通れば景観が悪くなると言っ、結局このルートが最適だっていう言い方をされる。もう一度検討してもらうため、蛭川の笠置山から福岡の二ツ森へ続いている蛭川の北側の、山沿い林道沿いのルートに絞って出したが、結局工費がかさむ、工期が長くなる、という 2 点で断られた。

将来のことを考えたら、孫、子が、ここへ戻って、住み着いてくれることがこの蛭川、並びに一之瀬の発展にもなっていくと思う。

参加者

まず鉄塔ありきが問題。鉄塔をなくす方法はいくらでもある。本来なら、JRが考えるべきこと。市長は行政のトップとして提言すべきだと思う。例えば地面を掘って送電の設備を設ける。そうすれば、距離も短くなるし、ここに住むのも非常に良くなる。

参加者

私は定年と同時に、他にどこかいいところはないかと探していた中、この笠置山の景観に惚れ、ここに住もうと決めた。ところが、突然、鉄塔の話が出てきて、私の家のすぐ近くだ。中電の資料が回ってきたが、なんでこんな鉄塔が建つんだということで非常に悩んだ。いろいろな方々の意見も聞いて、私のかみさんが自治会への陳情などを資料にまとめてくれた。しかし、結局こういう状態になってしまった。目の前に建ってしまった。

参加者

市からも来て現場を見ている。彼の自宅の目の前、150メートルぐらい先に、60メートル程の鉄塔が、視野の範囲で7本程ある。すごい数なんです。これは住めるところじゃないと思った。

参加者

朝起きて玄関出ると憂鬱。中津川市は住みよいまち、移住のランキングで上位に入っているが、これからのことを考えたら、やっぱり安全・安心な生活はできない。電磁波によって小児がんが多いというような学説もある。

参加者

中津川市の景観条例の趣旨に合わない申し立てでも却下される。条例がなんの役にも立たない。リニア送電線を何とかしてくださいと、市役所へ出向いてもあまり協議してくれない。

参加者

恵那市では、地元、市、事業者との3者の連絡協議会があり、その中で、住民と話し合って移設ができたという経緯がある。恵那市は最初から3者で連絡協議会を作って話し合ってきたが、中津川市はそれがなかった。

今からでも遅くないので、今までとこれからの問題点を、協議会を作って話し合っていけば、問題は起きないのではないか。

参加者

特に、住民の意見が申し入れされても、庁内で議論された形跡がない。中電の申請に対して、関係者へ諮問しなくていいのかと。住民の声が届いていない。

参加者

一之瀬地区に隣接する高山の若山地区と木積沢地区でも、平成 27 年に説明会が開かれて、電磁波が人体に与える影響や景観の問題に真剣に向き合って、インターネットで調べたり、環境保全地区に町内会環境保全委員というポストを設けて、全国の送電線に悩まされている自治体に出向いた。本当に深刻な問題があって、これはやっぱり駄目だという話で。

中津川市長宛て、それから苗木の財産区長、中津川市議会宛てに陳情書を出しました。私たちは断固反対すると。

当初は 1 カ所ほど民家の上を通る計画だったが、交渉してる間に、民家から距離があるからという理由で順番に切り崩されていった。

中部電力は送電線から距離をとれば人体に影響はないという説明をするが、どれだけ小さな電磁波でも、長期被爆することによって問題がある。特にこの一之瀬地区、若山地区というのはラジウム鉱泉地帯。東山温泉、ローソク温泉には、全国のがん患者が、やれるだけの治療をやって、何としてもとの思いで来られる。国立がんセンターなどでも紹介される。

何でそんなところに、疫学研究で発癌性があるものを建てるのか。

何が何でもこのラジウム鉱泉地帯から離してくれと、前市長にも頼んだが、1 回も来てくれなかった。

参加者

瑞浪のトンネルの工事についても問題が出ている。何かが起きたら、対応するでは市としては恥ずかしい話だと思う。なんとか住民の気持ちを汲みとってもらいたい。

参加者

中津川市は景観が美しいということで移住者も増え、リニアを含めて観光そのものが随分見直されてきてるというふうに聞いている。

その基盤、資源の基になっている景観の中に、この地域にしかない非常に重要なものがある。それは、ひとつばたご、シデコブシ、ハナノキなどの自然植物であるが、この辺りはほとんどが伐採され、送電線の鉄塔が建てられた。貴重な地域の景観と、鉄塔がつり合うのかという問題。

それから、中部電力の説明の安全というのは、あくまでも現在の段階。将来、

小さい子どもに大きな影響があるということは統計に出ている。

地下埋没にすると送電線から出る電磁波はほとんど出なくなり、電磁波の恐怖も少なくなるため、中津川市がいつまでも魅力な土地であるためにも大事なことじゃないかなと思う。

参加者

今の鉄塔を撤去してでも、新しい送電方法に切り替えることは、決して遅くありません。岐阜県に 1 つしかできない駅を抱える地として、英断を求めたらどうか。

参加者

まだ時間があるので、どうか中部電力と中津川市、我々の話し合いの場を進め直していただきたい。

参加者

里山を守る責任が我々にはある。住民参加とか、自治体の同意とか、そういうものがやっぱり必要ではないか。

参加者

私たちはこれから、どういうふうに住んで、この送電線と向き合っていかなければいけないのか、いろんな思いがあって、苦しみながら生きていかなければいけないが、それをどう思いますかと尋ねたところ、市は、ある事業を進めるにあたって、多少の犠牲はやむを得ませんという返答だった。

市長

事業主体の中電抜きで議論しても前に進まないというのが率直な感想です。また、蛭川地区の総意として反対の動きがないのかが率直な疑問です。

参加者

それは賛成派もいるということです。

市長

蛭川地区でもまとまってないということですよ。

参加者

区長とか自治会長は順番になる。だから、一之瀬地区の自治会長も自治会も賛

成とか反対の態度は表明していない。

参加者

リニアについては、自治会として責任持ってものを言えない状態にある。

参加者

リニア対策課には、反対や心配している住民の声をちゃんと聞いて、それなりの議論をしていただきたい。

参加者

我々住民は安全なところに移設をお願いするという方向性を持っているが、中電が逃げてしまい、話に乗ってくれない。

それはリニア対策課も知ってます。私たちが頼んで、作ろうとした送電線じゃない。あくまでも事業者が頼んできた送電線。話し合いをしても平行線になるというのはおかしい。どっちに主導権があるかといったら、住んでいる私たち。

市長

今日は、皆さんの今までの活動などをしっかりとお聞きしました。ありがとうございました。